記者発表資料

平成２８年１０月２０日
東北地方整備局
浅瀬石川ダム管理所

沖浦ダム『健康診断』を実施します

浅瀬石川ダムでは、東北技術事務所と合同により、本体建設着手から80年目、完成から71年目の「沖浦ダムの健康診断」に着手しております。

9月9日に実施したパイロット調査の結果から、本調査のための試料（コンクリートコア）採取の日程が決定しましたので、お知らせ致します。

浅瀬石川ダム上流の沖浦ダムは、昭和11年(1936年)に日本初の多目的ダムとして青森県により建設に着手され、昭和20年3月31日に完成しました。

完成から71年となる沖浦ダムですが、本体建設に着手して80年を迎えます。沖浦ダムは、戦前から戦中における日本の大規模土木工構造物の建設技術を知る上で非常に貴重な遺産と言えます。

そこで、浅瀬石川ダム管理所は、東北技術事務所と合同により沖浦ダムの健康診断を行います。

今回実施する調査としては、詳細調査・分析を行うため、沖浦ダムの堤体を削孔し、試料（コンクリートコア）採取するものです。

今後、採取したコンクリートコアは東北技術事務所において、各種試験を行います。

日　時：平成２８年１０月２５日（火）８：００～１７：００
場　所：沖浦ダム（別添図参照）

<<※発表記者会等　弘前記者会、黒石記者クラブ、津軽新報社>

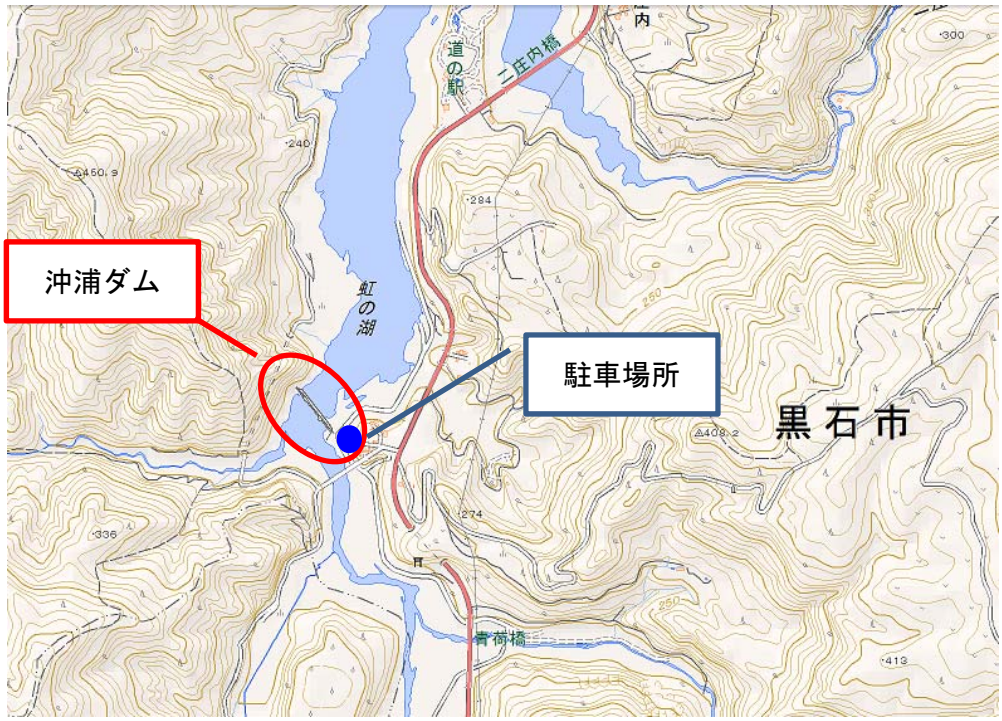
問い合わせ先

国土交通省　東北地方整備局　浅瀬石川ダム管理所

管理所長　栗田（くりた）　信博（のぶひろ）

管理係長　古川（こがわ）　政博（まさひろ）

電話：0172-54-8782　Fax：0172-54-8785



出典：国土地理院ウェブサイト(http://maps.gsi.go.jp/)



沖浦ダム全景：平成２８年９月５日撮影

１０月２５日の調査概要


9月9日調査状況

◆9月9日に実施したパイロット調査（直径15cm、延長約6．5mのコンクリートコア採取）から、今後各種試験を実施するための試料（コンクリートコア）採取を行います。

◆パイロット調査から分かった事

・コアの状況
　採取コア表面は、下流側の一部にみられるジャンカや打継跡を除けば、十分にコンクリートが締め固められ、密実で良好な状態にある。
・使用骨材
　使用されている骨材は、砕石および川砂利が混合され、粗骨材の最大寸法が80mmと考えられた。
・中性化深さ
　中性化深さは、上流面が14.9mm、下流面が13.1mmであり、既往の中性化速度式から得られる中性化深さよりも小さい。

◆調査方法

①削孔(コアリング)
　沖浦ダム上流面から水平方向に、直径２５０mmの径で削孔（コアリング）し試料を採取します。　長さ１m@３本、長さ0．７m@2本
②表面観察
　採取したコンクリートの表面観察を行い、使用された粗骨材（石）の種類、最大寸法などを確認します。
③中性化深さの測定
　採取したコンクリートを使用し、表面からどの程度まで中性化しているか測定します。

◆試験、分析等
　採取した試料については、東北技術事務所（宮城県多賀城市）において、次のような試験、分析を行います。
・静弾性係数試験
・圧縮強度試験
・配合推定　など

◆その他
　今後、調査結果がまとまり次第、沖浦ダムを広く知って頂くために、展示用の標本などを作製し、一般公開を予定しています。


9月9日調査状況

25日当日は、青森県内の国土交通省関係事務所連携の技術勉強会が行われており、その中で、沖浦ダムにおける「健康診断」、浅瀬石川発電所見学（10月24日からの取水停止に併せて実施）、水中ロボットカメラを使用した点検の勉強会を実施しております。

県内事務所連携技術勉強会：

青森県内の国土交通省関係事務所における技術勉強会

青森河川国道事務所、高瀬川河川事務所、津軽ダム工事事務所、浅瀬石川ダム管理所、青森港湾事務所、八戸港湾・空港整備事務所、青森地方気象台

11時～　沖浦ダム健康診断
13時～　浅瀬石川発電所
14時～　水中ロボットカメラによる点検

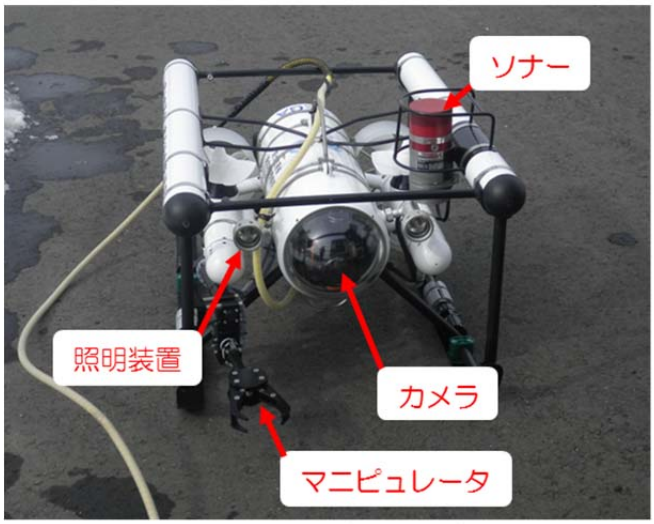
水中ロボットカメラによる点検（浅瀬石川ダム、東北技術事務所）

目的：浅瀬石川ダム共同取水施設の水面下の状況について、貯水池内の堆砂の影響を確認する。

水中ロボットカメラによる点検趣旨：

目視による点検を行う為には、浅瀬石川ダムの最低水位（標高164.0m）以下へ貯水位を低下する必要があるが、水道用水、河川維持用水としても使用していることから水位を下げることができない。

そこで、水位低下をせずに、点検できる方法として、水中ロボットカメラによる点検を行う。



水中探査装置（本体前部）


水中探査装置浸水状況